

第2次大網白里市環境基本計画
“将来にわたる環境像と目標”
(中間見直し版)



令和5年12月

1 環境像

まちづくりの基本となる「大網白里市第6次総合計画」では、「未来に向けて みんなでつくろう！住みたい・住み続けたいまち」を将来像とし、6つの基本目標に沿って各種施策を推進していくこととしています。

本計画では、総合計画の基本目標の一つである「人と自然が調和したまち【自然環境との共生】」を実現するための指針とすることから、総合計画の将来像や基本目標を踏まえ、市民・事業者・市が協力し合い環境保全を推進するイメージとして、本計画で本市が目指す環境像を次のように定めます。

みんなでつくる 自然と共生し 安心して暮らせるまち

2 目標（まちづくりの基本目標）

（1）目標（まちづくりの基本目標）の設定

環境像を実現するため、4つの環境分野ごとに、目標（まちづくりの基本目標）を設定します。

○生活環境：身近な問題（大気、水質、廃棄物 など）

- ◇資源を大切に作るまちづくり
- ◇安心して暮らせるまちづくり

○自然環境：自然の保護（森林、里山、海岸 など）

- ◇自然を守り、ふれあえるまちづくり

○地球環境：地球全体の問題（地球温暖化、エネルギー など）

- ◇環境に負担をかけないまちづくり

○環境コミュニティ：人とのつながり（教育、情報発信、参加 など）

- ◇一人ひとりが実行するまちづくり

（2）指標における目標値設定と新たな指標の作成

各目標ごとに指標を設定していますが、計画策定時における目標値の設定年度は、計画の中間年度である令和2年度とされているため、今回の中間見直しで、計画最終年度の令和8年度までの目標値を改めて設定します。

なお、令和3年3月に策定された大網白里市第6次総合計画の内容もふまえて、一部の指標については再検討を行い新たな指標を設定しています。

また、計画期間後半にかけて、より市民や関係者の実感に即した適切な指標の追加について検討を進めていきます。

目標（まちづくりの基本目標） 1

資源を大切に作るまちづくり

今日の経済社会は、大量生産、大量消費、大量廃棄型社会となっており、多くの環境問題は、資源の消費と、そこから発生する廃棄物の増加など、私たちの日常生活や事業活動に起因しています。

これらの問題解決に向け、自らのライフスタイルを見直し、循環を基調とする経済社会システムを実現するために活動する必要があります。

このようなことから、3R（リデュース：ごみの減量、リユース：再利用、リサイクル：再資源化）活動と、廃棄物の適正処分に向けた取組を実施し、資源の循環を維持する、資源を大切に作るまちづくりを目指します。

■ 指標と目標値

指 標	現状値 (令和 2 年度)	目標値 (令和 8 年度)
市民 1 人 1 日当たりの 可燃ごみ排出量	672g	603g
市内の家庭から出る 1 年間の可燃ごみ排出量	12,062t	10,274t

※東金市外三市町清掃組合「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」による本市分

目標（まちづくりの基本目標）2

安心して暮らせるまちづくり

水や空気や土の保全是、自然環境を良好に維持していく重要な要素であり、私たちが健康で安心した生活を送るために大気、水質などの悪化や不法投棄を未然に防ぐ努力をしなければなりません。このことから、市は、公共用水域の水質保全のため、下水道の整備や適切な管理に取り組み、下水道計画区域以外の地域には、合併処理浄化槽の設置を推進していきます。また、法令などに基づく規制・基準の順守について啓発に努め、市民が日常生活におけるマナー・モラルを意識し、清潔で快適な生活空間を有する、安心して暮らせるまちづくりを目指します。

■ 指標と目標値

指標	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和8年度)
合併処理浄化槽設置 (転換) 補助基数(※)	15基	90基
不法投棄件数(年間(※))	103件	70件

※ 合併処理浄化槽設置(転換)補助基数は、令和3年度から令和8年度までの6年間での目標値。

※ 不法投棄件数は、通報ベースによる数値。

目標（まちづくりの基本目標）3

自然を守り、ふれあえるまちづくり

本市は、丘陵地の森林と小中川をはじめとした河川や海岸、市街地を取り囲む田園風景などの豊かな自然を有しており、多様な生態系が形成されています。この豊かで身近な自然を将来に継承していくためには、社会全体が自然への関心を高め、自然保護に関する自主的な取組を進める必要があります。

また、森林・河川・海岸などにおける自然とのふれあいは、健康な生活を確保していく上で不可欠であり、健康の保持増進の効果とともに、自然環境の保全に対する意識の高まりにつながります。

このようなことから、適切な森林管理や海岸の保全などを行うことにより、生物多様性の保全と自然と共存するライフスタイルを継続し、自然を守り、ふれあえるまちづくりを目指します。

■ 指標と目標値

指 標	現状値 (令和 2 年度)	目標値 (令和 8 年度)
ゴミゼロ運動参加人数	実施せず	6,500人
小中池公園管理（除草等作業）	3回/年	3回/年【維持】
小中池公園来園者数（土日祝日）	26,606人	28,000人

目標（まちづくりの基本目標） 4

環境に負担をかけないまちづくり

化石燃料の大量消費など、人間の活動により、大量の温室効果ガスの排出を招き、その影響は地球規模の気候変動を引き起こしています。

これらのことから、地球温暖化などの地球規模の環境問題は、身近な日常生活が要因となっていることを認識し、省エネルギーの推進によりエネルギー消費量を減らし、新エネルギーなど再生可能なエネルギーの利用への転換を進め、二酸化炭素の排出を抑制し、脱炭素社会を基調とした、環境に負担をかけないまちづくりを目指します。

■ 指標と目標値

指 標	現状値 (令和 2 年度)	目標値 (令和 8 年度)
公共施設からの 温室効果ガス年間排出量	3,968,592 kg-CO ₂	3,484,333 kg-CO ₂
新エネルギー導入補助 制度の実施	2 事業 (住宅用省エネルギー設備等設置費補助金)	4 事業

目標（まちづくりの基本目標）5

一人ひとりが実行するまちづくり

今日の環境問題を解決していくためには、自分たちの暮らしが環境に与える影響を各自が深刻に受け止め、良好な環境の保全と創造に対する一人ひとりの自覚と責任に基づく行動が重要となります。

また、一人ひとりの意識を高めるため、未来を担う世代も含めた環境学習を推進し、環境への負担の少ない取組や事業活動を、世代を超えたつながりで理解し進めていく必要があります。

このようなことから、持続可能な社会の形成のため、市民・事業者・市がそれぞれの立場から環境保全活動に参加しやすい場を創出し、お互いに連携するとともに、一人ひとりが実行するまちづくりを目指します。

■ 指標と目標値

指 標	現状値 (令和 2 年度)	目標値 (令和 8 年度)
資源回収年間参加団体数	46 団体	52 団体
清掃活動（ボランティア回収） 年間参加者数	— (令和 4 年度集計開始)	増加